

—第13回— 「病院ボランティアを募集しています。」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき
病院長 吉川 裕之



当院は日本病院ボランティア協会に属し、昨年まで約50名が病院ボランティアとして登録されておりました。ですが、ご高齢などの理由で多くの方が実質的な活動を停止されていることがわかり、本年度からはボランティアの内容を外来案内・送迎と緩和ケア病棟での活動などに絞り、5名から再スタートさせていただいております。しかし、さらなるサービス向上のため、病院ボランティア活動は今後活動範囲を拡大し、充実させていくことが必要だと考えております。ぜひ県民の皆様のご協力をお願いします。応募要件、申込み方法は当院のホームページの「病院ボランティア募集」をご覧ください。(http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/archives/recruit-info/volunteer)

当面は18歳以上(高校生不可)としていますが、今後は高校生まで年齢を下げて夏休みなどの時期に活動していただくことも考えています。

病院ボランティア活動は、免許を保持しない者が行うことが法規上問題ない病院労働を補完するという面に加えて、患者中心医療、患者参加型医療の実現など医療の変容にも貢献するとされています。患者さんの視点での病院改革にも協力していただきたいと考えております。病院ボランティア活動の基本条件は自発性、無償性、公益性ですが、その他の条件としては創造性、先駆性、発見性、継続性、専門性もあげられています。活動内容は患者さんの話し相手、案内・送迎、環境整備、レクリエーション、図書貸出、食事介助、通訳など多様なものとなって

います。

アメリカでの病院ボランティア活動は、制度として確立されており、患者さんへの奉仕精神からだけではなく、本人にとって活動のメリットがあることが発展の要因だったようです。医療系の学生については、学生中のボランティア活動が学校から直接評価されます。夏休み等を利用して、病院でリハビリのサポートを行ったり、車椅子の点検、浴室の清掃などを実施しているようです。実際に現場に入り活動することにより、医療現場の仕組みやスタッフとの交流などを通じて、それぞれの業務の意味や重要性を知り、医療人としての人間力を培うという考え方なのでしょう。

病院ボランティア活動は、病院の理念「私たちは、患者さんに優しい、質の高い、県民に信頼される医療を提供します。」を実現するために必須の事業と考えています。通院や入院中の患者さんが少しでも良い環境や状態のもとで、治療を受けられるよう、温かな手を差し伸べて頂ければと思います。ぜひ皆様の力をお貸しください。

